

No.	15-5-1	場所	高森町出砂原	次世代への継承キーワード
名称	大島川の氾濫で砂礫の河原と化した出砂原			災害現象理解
災害現象	洪水氾濫			河川 大島川
補足事項				支流

- 諏訪市
- 岡谷市
- 辰野町
- 箕輪町
- 南箕輪村
- 伊那市
- 高遠町
- 長谷村
- 宮田村
- 駒ヶ根市
- 飯島町
- 中川村
- 大鹿村
- 松川町
- 高森町
- 豊丘村
- 喬木村
- 上村
- 飯田市
- 南信濃村
- 清内路村
- 阿智村
- 浪合村
- 平谷村
- 下條村
- 阿南町
- 売木村
- 天龍村

概要

高森町吉田地区では、大島川から押し出された土砂が出砂原集落を埋めた。巨岩を積み上げた長さ約 500mにわたる惣兵衛堤防は、200 年以上もこの地域を守ってきたが、竜の背のごとく盛り上がった天竜川は堤防を乗り越え、地上部のほとんどが押し流された。田沢川は鉄砲水により下流一帯が一面河原となり、11 名の犠牲者を出した。

●被害状況の記録：

大島川の大竜社付近では鉄橋やみずほ橋にせがれて、この付近で両岸へ氾濫し、上流からの土砂をすべて大竜社と吉田河原へ流入させた。大竜社へ数万<sup>3</sup>m、吉田河原へは最高6m余に達する程で、ために民家2～3戸が屋根まで埋没し、その量は計り知れない。

水防作業も27日夜から30日まで吉田側、出砂原側それぞれで続けられ延べ1,100人、木材千数百本70余万円を要した。

記録



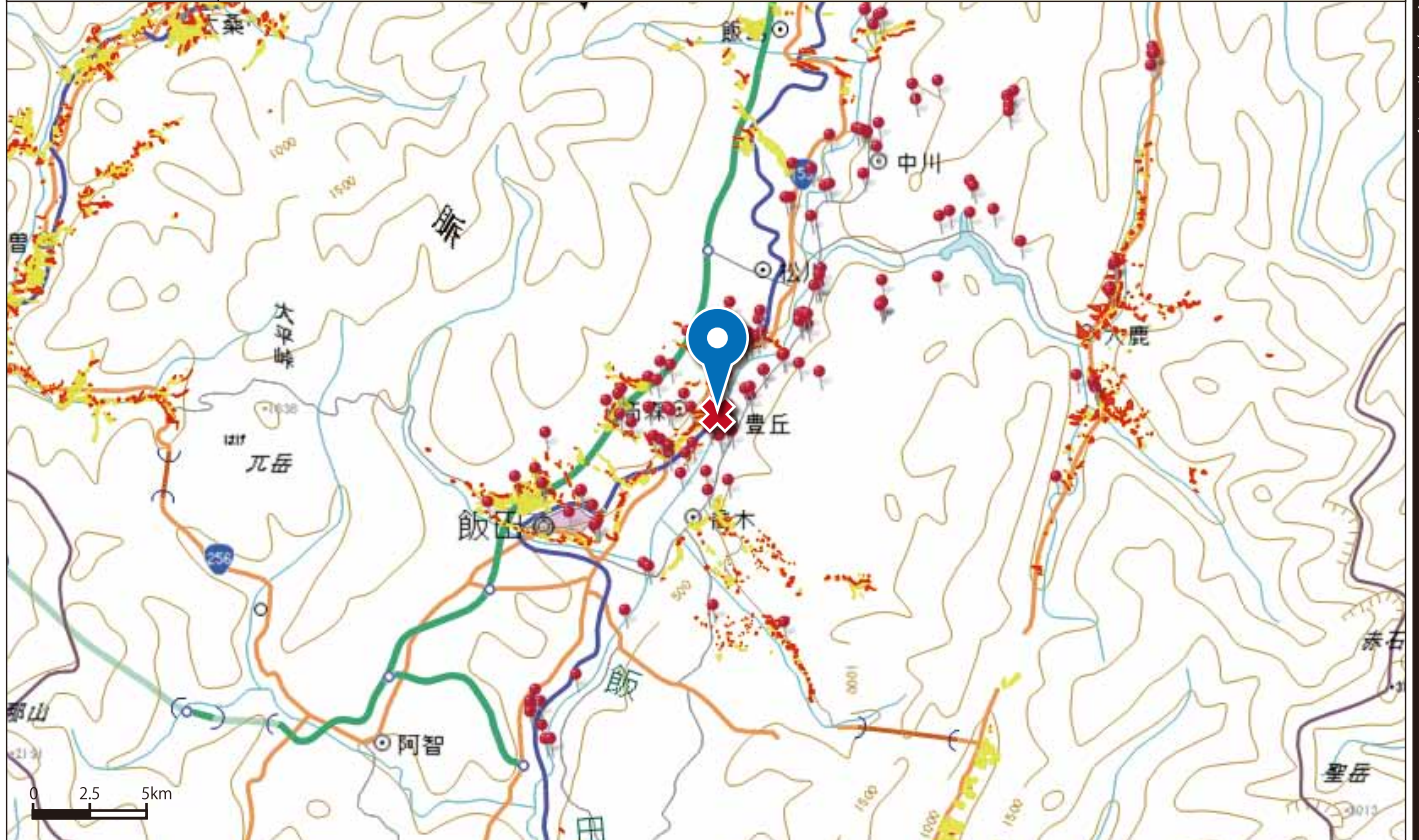
大島川の氾濫で一面の砂礫の河原と化した出砂原。  
その後同じ位置の復旧状況として、昭和39年に鉄道は飯田線が復旧し、昭和56年頃には国道、バイパスが開通し宅地化がすすんでいる。

出典	「水害から生命・財産を守りましょう」p.8
備考	

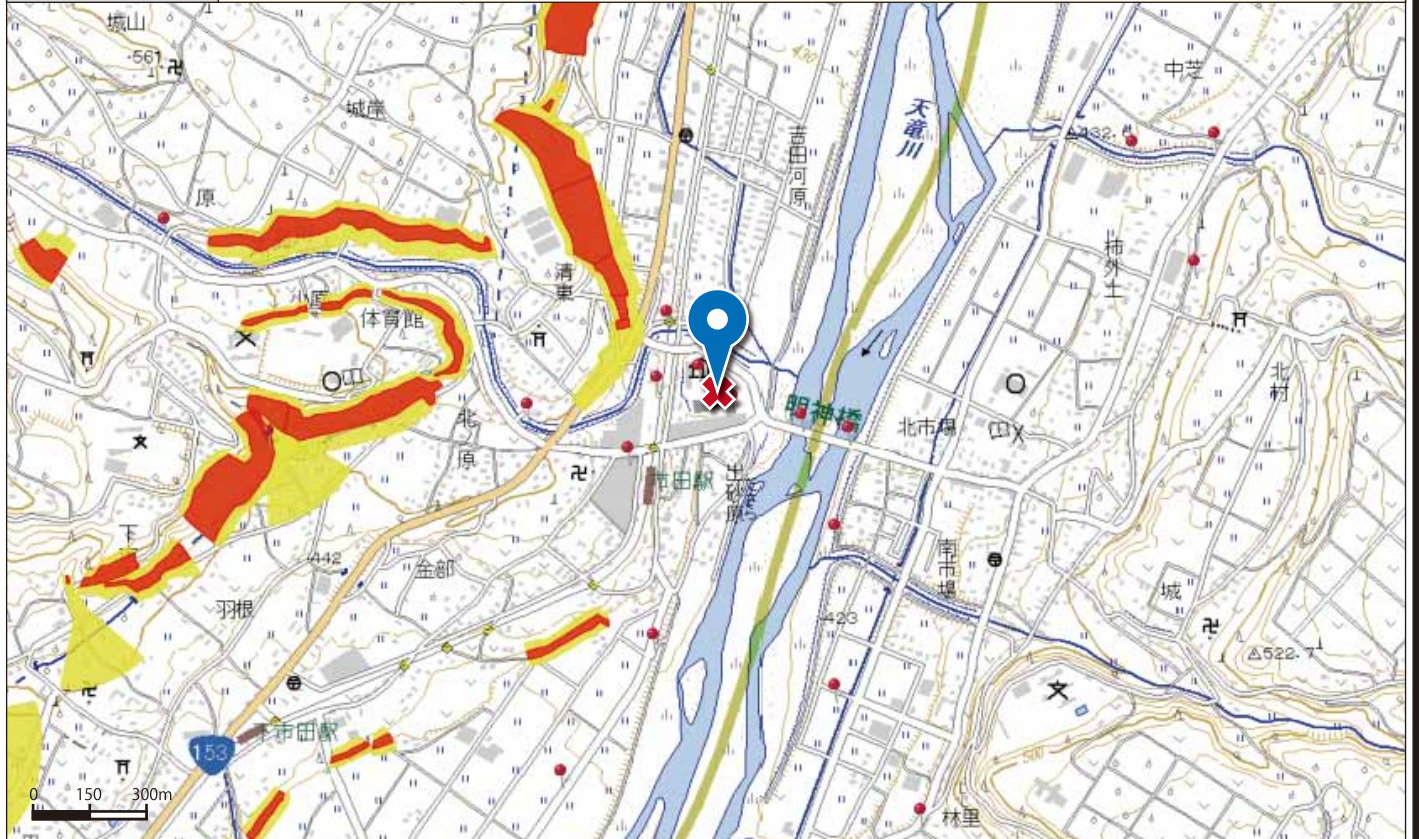
No.	15-5-1	場所	高森町出砂原	緯度	35.551170
-----	--------	----	--------	----	-----------

名称	大島川の氾濫で砂礫の川原と化した出砂原			経度	137.888439
----	---------------------	--	--	----	------------

地図 広域図



地図 詳細図



備考 上記地図に表示されている、黄色の区域は「土砂災害警戒区域」（通称：イエローゾーン）といい、土砂災害のおそれがある区域を指します。また、赤色の区域は、「土砂災害特別警戒区域」（通称：レッドゾーン）といい、土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域を指します。